

朝霞地区入退院支援ルール普及状況アンケート結果（概要）

1 調査方法・回収状況について

調査期間：令和3年12月7日～20日

調査対象：地区内の医療関係機関（医科・歯科・薬局・訪問看護ステーション）・介護事業所795か所

調査方法：3師会会員（医師・歯科医師・薬剤師）は各事務局から配布、介護事業所と3師会非会員は郵送、病院はFAX送信

調査内容：

	調査内容	調査対象		
		介護事業所・訪問看護ST	病院	診療所・歯科診療所・薬局
①	手引きの周知状況	○	○	○
②	キックオフメッセージの閲覧状況	○	○	○
③	入退院支援対象者の理解	○	○	
④	入退院支援の流れの理解	○	○	
⑤	ケアマネからの入院時情報提供状況		○	
⑥	ケアマネからの退院・退所情報提供状況			○
⑦	周知チラシの活用状況	○	○	
⑧	入退院情報提供書類の活用状況	○		
⑨	退院・退所情報提供書類の活用状況		○	
⑩	普及啓発の工夫	○	○	○
⑪	普及推進のアイデア、提案	○	○	○
⑫	その他（課題、意見等）	○	○	○

回収結果：回答数262件（回収率33%）で、回答率の高い事業所は地域包括支援センター68%、病院59%、居宅介護支援事業所54%でした。医師・歯科医師・薬剤師では、3師会会員より非会員の回答率が高かった。

2 調査内容別結果

- ①入退院支援の手引きの周知度は、60.3%でした。
- ②啓発動画（キックオフメッセージ）の閲覧状況は、42.4%でした。
- ③入退院が必要な対象者について、「理解できた」が71.9%でした。
- ④入退院の流れについて、「理解できた」が69.4%でした。
- ⑤病院の方で、ケアマネジャー等から入院情報提供状況の有無を尋ねると、「よくある」10%、「時々ある」50%でした。
- ⑥医師・歯科医師・薬剤師の方で、ケアマネジャー等から利用者の退院情報の提供状況について、「よくある」5%、「時々ある」17.7%でした。

- ⑦本人・家族への周知用チラシの活用について、「活用している」が13.2%「活用していない」が57.9%で、活用していない理由として「活用場面がわからない」が14.9%、「その他」が45.9%でした。その他の内容では、知らなかった、忘れていた、名刺を渡している、事業所独自のものを使っている等の回答がありました。また「活用していない」回答者に、今後の活用意向について尋ねると、「活用したい」87.1%の回答があり、さらに「どうすれば活用できると思いますか」と尋ねると、「初回導入時、契約時に渡す」「入院が決まっている場合や、救急搬送が予想される場合に渡す」等、具体的な方法まで考えた回答もありました。
- ⑧入院時の情報提供書類（ツール）の活用状況について、居宅介護事業所、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、介護支援事業所に尋ねると、
 A：入院時情報提供送付書の活用について、「活用している」22, 5%「活用していない」49.5%で、活用していない理由として「必要性を感じない」4.5%「その他」35.1%でした。その他の内容では、「既存（自社フォーマット他）の様式を利用」「看護サマリーを利用」「電話で行っている」等の回答でした。
 B：入院時情報記録書（朝霞地区共通様式：厚生労働者版）の活用について、「活用している」9.9%「活用していない」56.8%で、活用していない理由として「既存の様式を利用」33.3% 「その他」18.9%でした。その他の内容では、「電話や退院サマリーを利用」「訪問診療医が情報提供書を書いて下さる」「今回知った」「今後活用（検討）したい」等の回答でした。
 C：活用されている方に「退院時情報提供」の有無を尋ねると、「ほぼある」9.9%「時々ある」5.4%、「未回答」83.8%でした。
- ⑨退院・退所時の情報提供書類（ツール）の活用状況について、病院に尋ねると、
 A：退院・退所時情報提供送付書の活用について、「活用している」0%「活用していない」70%で、活用していない理由として「既存の様式を使っている」70%でした。
 B：退院・退所時情報記録書（朝霞地区共通様式：厚生労働者版）の活用について、「活用している」10%「活用していない」80%で、活用していない理由として「既存の様式を使っている」が90%でした。
- ⑩普及を推進するために、事業所内で工夫していること（抜粋）
- 【ケアマネジャー・訪問看護】
- ・事業所内の目につくところに置く、専用ファイルに入れる、ミーティング、会議、勉強会、検討会等
 - ・入院時の情報記録書の項目をきちんと埋められるようアセスメントを始めた。
- 【病院】
- ・入院時のインテークの際、朝霞地区共通様式の項目を参考に情報をとつ

ている。過不足なく情報収集がスムーズになった。

- ・電カルに移行するので、その時に活用します。

⑪普及を推進するためのアイデア、提案等（抜粋）

【ケアマネジャー・訪問看護】

- ・事前に相談員と連携を図るようにしていきたい。
- ・各病院にメールで送付してみたい。宛名などすぐにわかるようなページがあればうれしい。
- ・包括で主催するケアマネ向けの勉強会で周知。
- ・少人数での意見交換、勉強会、事例の紹介
- ・登録している病院が知りたい。病院窓口の一本化。

【病院】

- ・多職種連携懇談会の開催（ZOOM等で）
- ・地域で気がかりな方が入院するときは、入退院センター看護師へご連絡頂ければ病棟へお伝え出来ます。

【医師・歯科医師・薬剤師】

- ・活用事例の共有、積極的な情報交換、勉強会
- ・当院では院内診療だけでなく、訪問歯科診療を行っている関係上、退院退所時情報提供書もしくはそれに類似する情報提供を受け取ることは度々あります。※当院からケアマネジャー様等へ連携連絡をとり、診療を進めて行くことも多いです。今後は朝霞地区医師会ホームページを閲覧し、情報を受け取るように努めますのでよろしくお願い致します。
- ・退院処方がどのように出ているか、病院から薬局に直接ご連絡頂けるとスムーズになると思います。
- ・病院薬剤師と薬局薬剤師との交流する機会が欲しい。
- ・志木市の長寿課が作成している「志木市医療介護連携お助けガイド」のようなものがあるとケアマネジャーさんからも情報提供がしやすいのではないかと存じます。

⑫その他（課題、ご意見等）

【ケアマネジャー・訪問看護】

- ・アプリなどが欲しい。
- ・入退院連携ではありませんが介護連携の医療系サービス利用時主治医から利用について、ケアマネが意見を頂く旨を医療関係者の方がご存じ頂けておりません。可能であれば御周知頂けると幸いです。
- ・退院カンファレンスは重要と思われる。支援体制が整わない状態での退院が多い気がする。
- ・入院時に情報を提供していますが、退院時に病院から退院情報記録書が欲しいです。簡単なサマリーだけのことが多いです。
- ・入院後、どの診療科へ入院となったのか、担当は病棟か相談室化など不

明な場合が多いと思います。せっかくこのようにルールが出来たのであれば、より活用しやすくカスタマイズして頂ければと考えます。

【病院】

- ・多職種連携懇談会の開催（ZOOM 等で）
- ・地域で気がかりな方が入院するときは、入退院センター看護師へご連絡頂ければ病棟へお伝え出来ます。

【医師・歯科医師・薬剤師】

- ・薬剤師も入退院の情報が必要としていることを意識してもらうことが大切だと思います。
- ・久しぶりに来局された患者様から入院したという話を伺うことがあるので、患者様へのアナウンスも大切と思われます。
- ・現在の状況では、退院処方がいつまであるのか、一包化されているのか等の情報がなく、直接患者宅へ伺って確認する必要があります。前もって情報を頂けることで、患者負担は軽減でき、薬局の効率的な介入を図ることが出来ると考えています。
- ・医療機関から新規訪問依頼があった際、情報提供を受けることが多いです。訪問継続中の患者が入退院をする際は活用されていないか、薬局へは情報が届かないことがほとんどです。
- ・薬剤師としては、退院時に注意すべき薬剤からの副作用などのポイントが知りたいです。また、入院中の服用薬剤（メーカーも）や手術や検査などの状況がわかると助かります。退院後に家族が来局し、詳細がわからず、処方前の DO 処方をお渡しすることが多々あります。
- ・薬局も多職種の方と入退院支援のお役に立てるよう、必要時の情報提供や退院時のカンファレンスへの参加など積極的に行っていきたいと思えます。今後ともよろしくお願い致します。
- ・職種同士で知りたいことなどのフォーマットを作成。メールで情報共有。オンライン会議の活用
- ・おくすり手帳に担当ケアマネの方のお名前・連絡先（名刺など）を貼付して頂くとありがたいと思います。
- ・普段入退院に関わるのが少ない薬局では手引きの存在は知っていても内容まで理解していないことが多いと思います。今回のアンケートをいただいたことが再度内容を確認するきっかけになったので定期的に意見を求めるような文書を送付するのはいかがでしょうか。
- ・入退院時に関係機関と連携をとり、情報共有することを意識付けていく病院の転院（外来・病棟等）にも周知して頂けるように努力しています。